



Heibonsha Library

菅江真澄  
内田武志吉本常二編著

菅江真澄遊覧記 1

1784年10月～1785年5月  
「秋田のかりね」 「小野のふるさと」

菅江真澄と歩く  
二百年後の勝地臨毫  
出羽国雄勝郡

逆木一  
Sakaki Heitoku

「FAN AKITAプロジェクト」で製本された逆木一さんの力作（2017年5月発刊）

- 1814年高松日記、駒形日記
- 雪の出羽路雄勝郡
- 勝地臨毫雄勝郡…「勝地臨毫（しょうぢりんごう）」とは、景勝の地を筆でスケッチ。「ゆざわジオパーク」を絵図で記録、絵図89。



## 漂泊の旅人・菅江真澄

- 1754年、愛知県豊橋市生まれ
- 1783年2月末、三河を出発、北へと向かう
- 雄勝…奥羽で初めての冬体験—雪国の民俗を記す
- 鳥海町八木山一羽後町田茂ノ沢一田代一西馬音内一三輪神社一柳田の草薙家に滞在—湯沢一岩崎一関口一小野小町の遭跡—院内銀山



3





「カンジキというものを履いて、積雪の凍った上を木材をひき落とす木こりに問うと、この山を下れば秋田領のお国ですと、ていねいに答えた。そりに木材を積んだものが、たまに行き交うばかりで、ほかに通う人影はない。…あちこちに踏みつけてあるのは、熊や猿などの獣の踏み分けた跡だという」

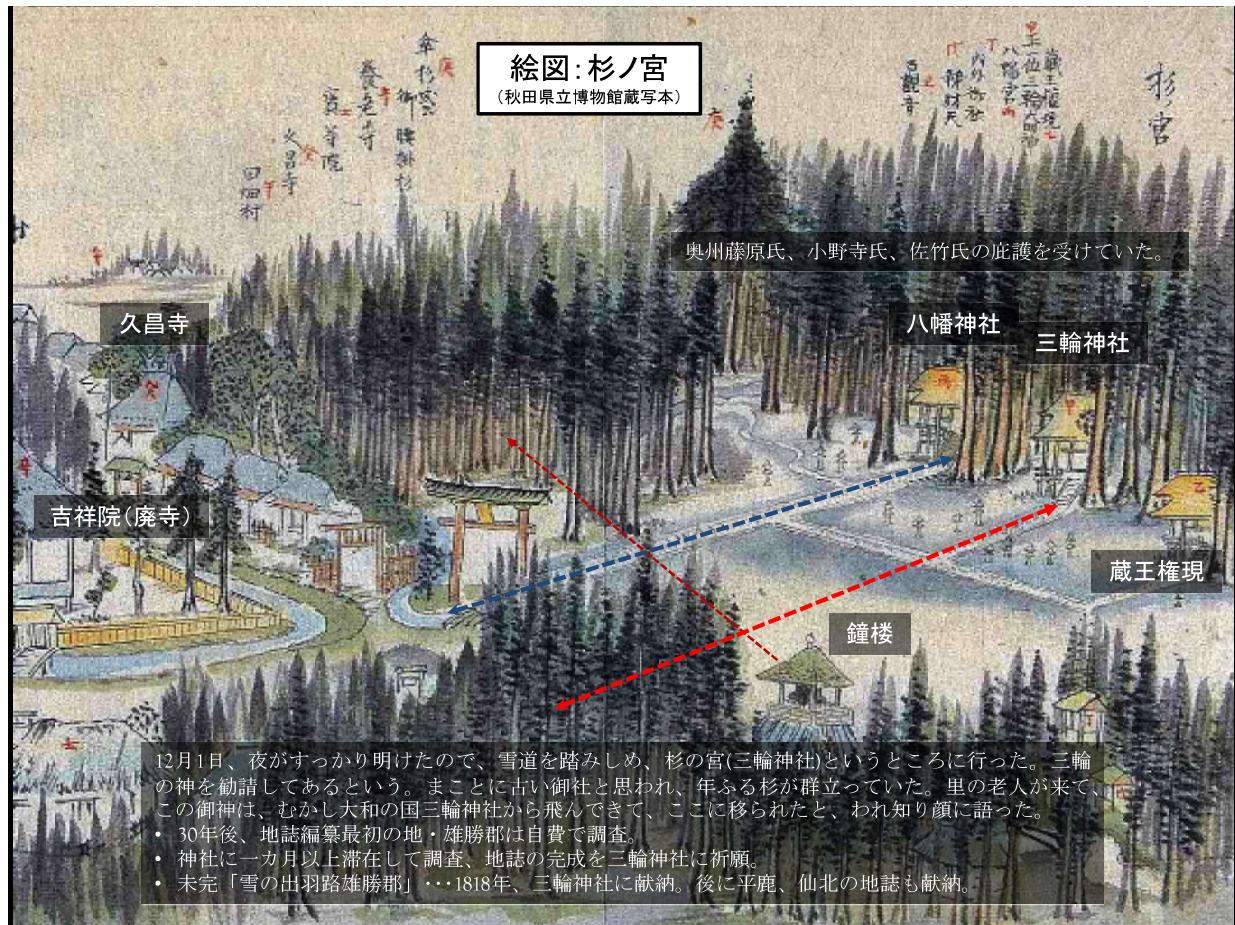
5



### 羽後町軽井沢田茂の沢

遙かな谷底に人の住家があったが、雪の下になって、煙ばかりが細く立ち上っている。ようやく山をおりると、路の傍らに大雪に隠れず、たいそう高い柱に…「田畠のものを盗み取った者は、この柱にくくりつけるべし」と書きつけてある。

…一日中雪道を難儀して、田茂ノ沢という、家が三軒の村に宿をもとめた。…11月23日、西馬音内へ。



## 雪に閉じ込められたらワラ仕事

①ハキソリ(子供スキー)



②雪車(ソリ)



③箱そり



④かいしきぼう(コタタキ)



真澄絵図「雪国の民具」  
(大館市立栗盛記念図書館蔵写本)

⑤毛笠(アンの穂と鳥の羽)



⑩眼スマレ

⑥ウマノソラ



⑧ワラ靴2種



⑨かんじき



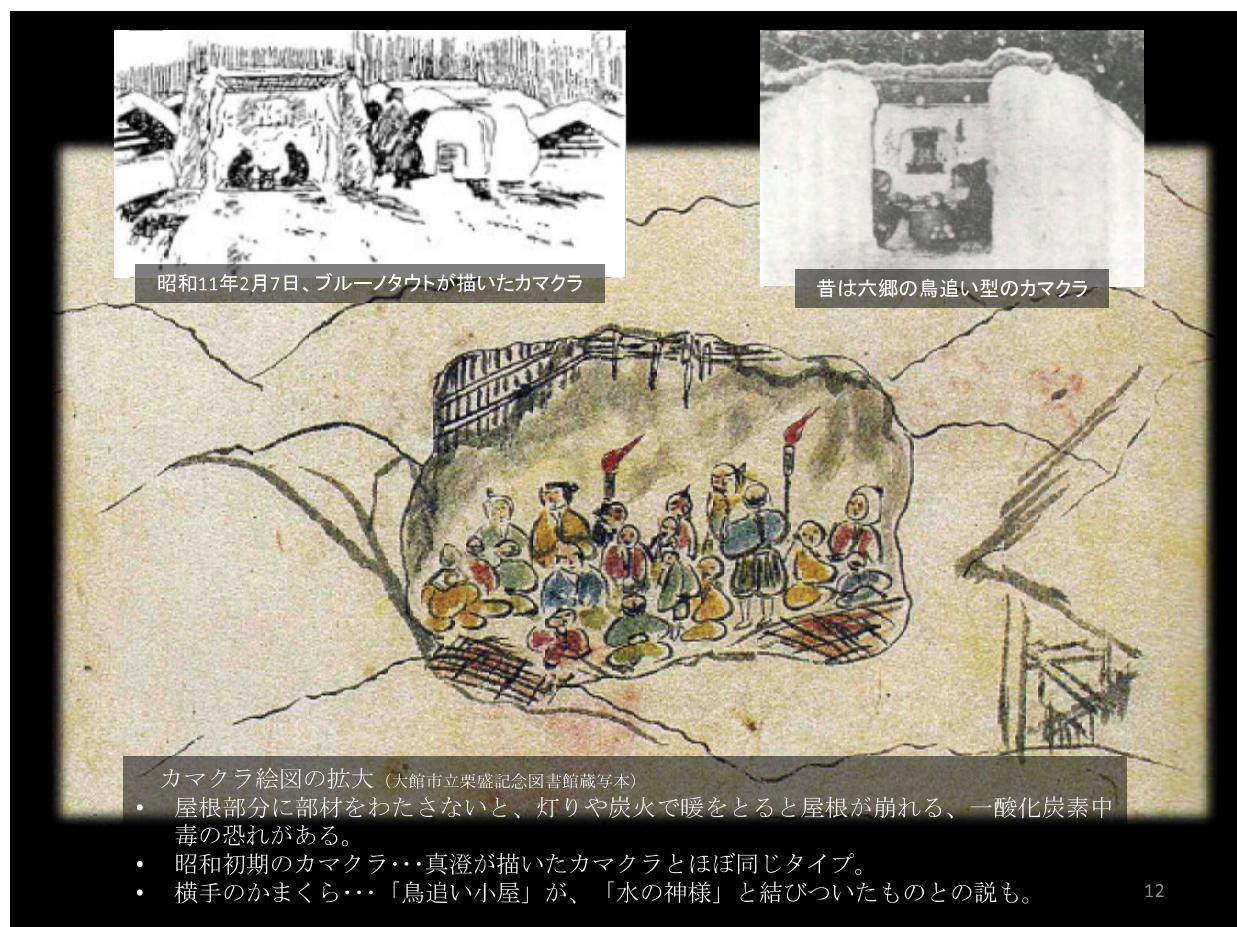
真澄絵図「雪国の装い」  
(大館市立栗盛記念図書館蔵写本)

9



人が乗ったり、米を積んだりなどしてソリを多く引いて行くなかで、医師が急病のために急ぐのであろう、雪の激しくかかる箱ソリの物見から、顔をわずかばかり覗かせて引かれ行くさまを見ていた。行き交う人はメスマレ、またメアテ(サングラスの代用)ともいって、薄い布を額から覆いかけていた。これは雪から眼を保護するためである。

10





- 1785年2月9日（旧暦1月1日）、初日のキラキラとさしのぼる光が、雪の山々に映えて美しく見渡され…家ごとに訪れて新年を祝い、挨拶をかわしていく人の言葉も晴れやかである。





### 雪中田植え

古くから庭先に稻わらを植え、田の神様に五穀豊穣を祈願したのが原形。稻川町では、雪の上にその年の豊作を祈念して豆ガラとワラで田植えを行った。これは稻穂が、大豆のように米粒が大きくなるようにとの願いがあった。



3月15日、湯沢…ウマノツラというものをきて、ケラミノをつけ、ソリをひいて行く男たちが大勢、自分の田畑のあるあたりを雪の上からおしゃかりながら、農作物のための堆肥を持ち運ぶのを遠くから見ていると、遙かな海上を舟で行くかのように見える。このようなただ白銀の山、白銀の道の風情を、故郷の人とともに見ることができたならと思いつつ、湯沢に着いた。(写真：写真集「米づくりの村」井上一郎著)